

# 東北地方 1 か月予報

( 6 月 1 9 日から 7 月 1 8 日までの天候見通し )

平成 1 6 年 6 月 1 8 日

仙台管区气象台発表

## < 予想される向こう 1 か月の天候 >

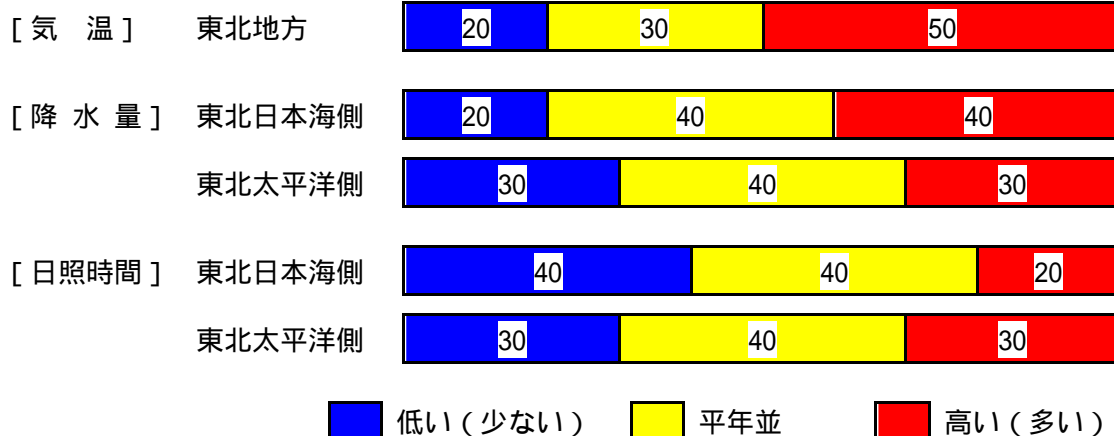
向こう 1 か月の実現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

東北日本海側は低気圧や梅雨前線の影響で、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。  
東北太平洋側は、オホーツク海高気圧や梅雨前線の影響で、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

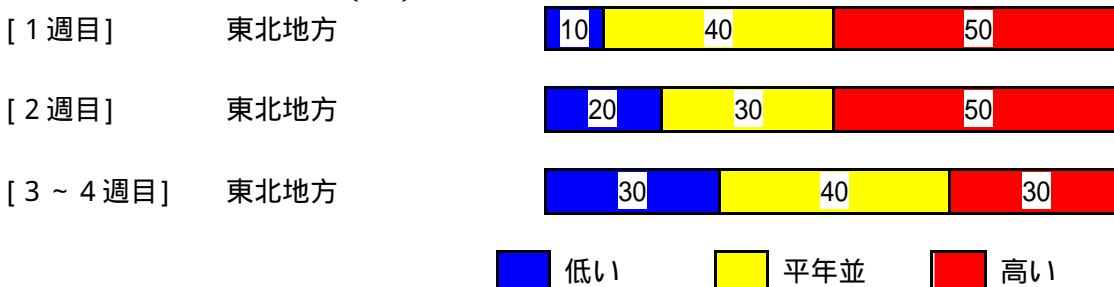
向こう 1 か月の平均気温は高い、降水量は東北日本海側で平年並が多い、東北太平洋側で平年並、日照時間は東北日本海側で平年並か少ない、東北太平洋側で平年並でしょう。

週別の気温は、1 週目は高い、2 週目は高い、3 ~ 4 週目は平年並でしょう。

## < 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 ( % ) >



## < 気温経過の各階級の確率 ( % ) >



## < 予報の対象期間 >

1 か月 : 6 月 1 9 日 ( 土 ) ~ 7 月 1 8 日 ( 日 )  
1 週目 : 6 月 1 9 日 ( 土 ) ~ 6 月 2 5 日 ( 金 )  
2 週目 : 6 月 2 6 日 ( 土 ) ~ 7 月 2 日 ( 金 )  
3 ~ 4 週目 : 7 月 3 日 ( 土 ) ~ 7 月 1 6 日 ( 金 )

## < 次回発表予定等 >

1 か月予報 : 毎週金曜日 1 4 時 3 0 分 次回は 6 月 2 5 日  
3 か月予報 : 6 月 2 4 日 ( 木 ) 1 4 時 0 0 分

< 参考資料（平年並の範囲等） >

（１）30 年平均値（向こう 1 か月の平均気温、降水量、日照時間と 1 週目、2 週目、3 ～ 4 週目の平均気温）

	気 温 ( )	降 水 量 (mm)	日照時間 (時間)	気 温( )		
				1 週目	2 週目	3 ～ 4 週目
大船渡	19.2	188.5	130.8	17.9	18.5	19.9
新庄	20.5	195.6	129.4	19.2	19.9	21.2
若松	21.7	174.3	137.3	20.4	21.0	22.4
深浦	19.4	136.6	165.7	17.9	18.8	20.2
青森	19.1	94.6	167.3	17.6	18.4	19.9
むつ	17.6	124.5	142.6	16.1	16.9	18.4
八戸	18.1	118.8	153.6	16.6	17.4	19.0
秋田	20.9	182.0	155.4	19.6	20.3	21.6
盛岡	20.0	154.8	129.9	18.7	19.3	20.7
宮古	18.0	147.2	127.5	16.5	17.2	18.8
酒田	21.3	194.4	152.0	19.9	20.6	22.0
山形	21.4	148.6	130.3	20.0	20.7	22.1
仙台	20.1	181.6	107.0	18.7	19.4	20.9
石巻	19.5	146.5	126.0	18.2	18.8	20.3
福島	21.6	160.1	110.6	20.2	20.8	22.5
白河	20.2	206.6	104.5	18.8	19.5	21.0
小名浜	20.1	164.5	122.2	18.8	19.5	20.8

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

（２）1971～2000 年のデータに基づいた向こう 1 か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差（比）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差( )	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.5～+0.4	87～ 113	90～ 110
東北日本海側	-0.4～+0.3	85～ 111	91～ 106
東北太平洋側	-0.5～+0.4	85～ 111	87～ 113

（３）この予報期間の 1 週目、2 週目、3 ～ 4 週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1 週目	2 週目	3 ～ 4 週目
東北地方	-0.6～+0.5	-0.6～+0.6	-0.5～+0.5
東北日本海側	-0.6～+0.5	-0.5～+0.6	-0.5～+0.5
東北太平洋側	-0.6～+0.4	-0.8～+0.5	-0.6～+0.5

< 参考資料（利用上の注意） >

- （１）気温・降水量等は、「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の 3 つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000 年の 30 年間における各階級の出現率が等分（それぞれ 33％）となるように決めてあります（気候的出現率と呼びます）。
- （２）確率は、それぞれの階級が実際に起こると予想される割合を表しています。信頼性の大きい予測資料が得られた場合には気候的出現率（階級の定義から各階級とも同じで 33％）から大きく隔たった確率（10％や 60％、70％など）を付けられますが、信頼性が小さい場合には気候的出現率と同じかそれと同程度（30％、40％）の確率しか付けられません。
- （３）晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（少ない）場合は「平年に比べて多い（少ない）」、また平年の日数と同程度に多い（少ない）場合には「平年と同様に多い（少ない）」と表現します。なお、単に多い（少ない）と表現した場合には対象期間の 2 分の 1 より多い（少ない）ことを意味します。

# 東北地方 1 か月予報解説資料

平成 16 年 6 月 18 日 仙台管区気象台

## 1. 実現の可能性が最も大きい天候

向こう 1 か月 (6 月 19 日 ~ 7 月 18 日):

東北日本海側は低気圧や梅雨前線の影響で、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。東北太平洋側はオホーツク海高気圧や梅雨前線の影響で、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。  
平均気温は高いでしょう。

1 週目 (6 月 19 日 ~ 6 月 25 日):

期間の中頃にかけて気圧の谷や、台風第 6 号の影響で曇りや雨の日が多いでしょう。期間の終わりは東北太平洋側は湿った東よりの風の影響で曇りの所が多く、東北日本海側は概ね晴れる見込みです。  
平均気温は高いでしょう。

2 週目 (6 月 26 日 ~ 7 月 2 日):

低気圧や梅雨前線の影響で、東北日本海側は平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。東北太平洋側は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。  
平均気温は高いでしょう。

3 ~ 4 週目 (7 月 3 日 ~ 7 月 16 日):

オホーツク海高気圧や梅雨前線の影響で、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。  
平均気温は平年並でしょう。

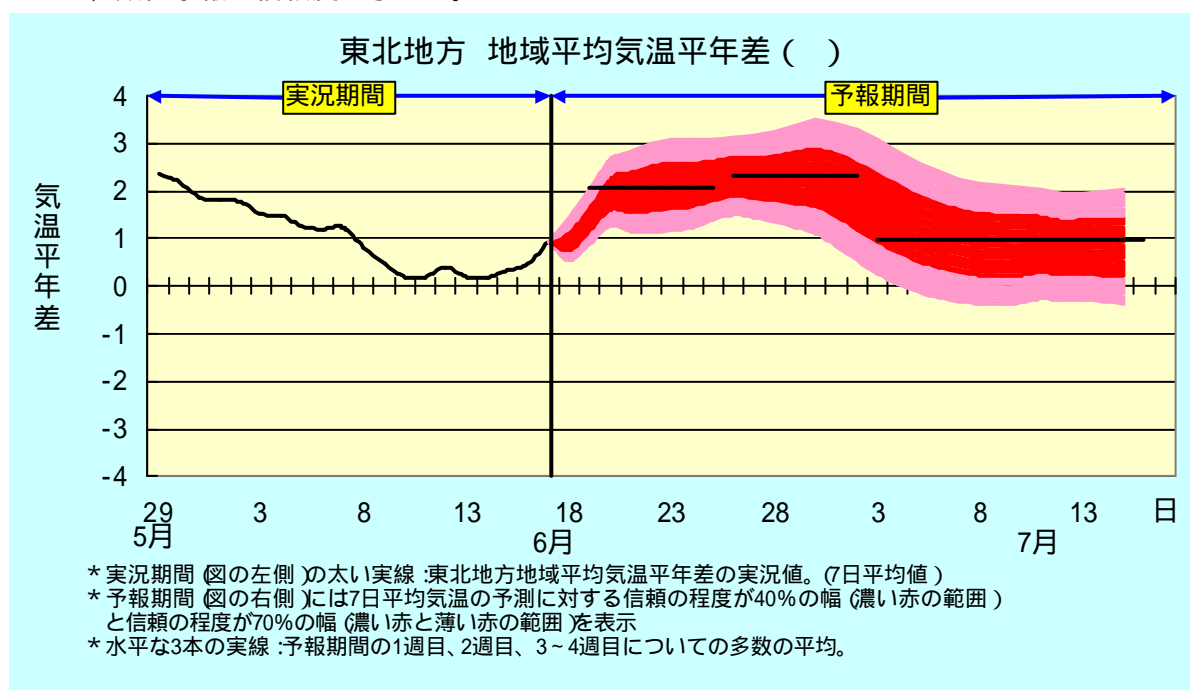
平年の晴れ日数

	向こう 28 日間	1 週目	2 週目	3 ~ 4 週目
東北日本海側	10.9 日	2.8 日	2.7 日	5.4 日
東北太平洋側	9.2 日	2.3 日	2.1 日	4.8 日

## 2. 東北地方の地域平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1 週目を「高い」、2 週目を「高い」、3 ~ 4 週目を「高い」と予想している。予報は、3 ~ 4 週目を「平年並」とする他は数値予報通りとする。

なお、数値予報の信頼度は小さい。

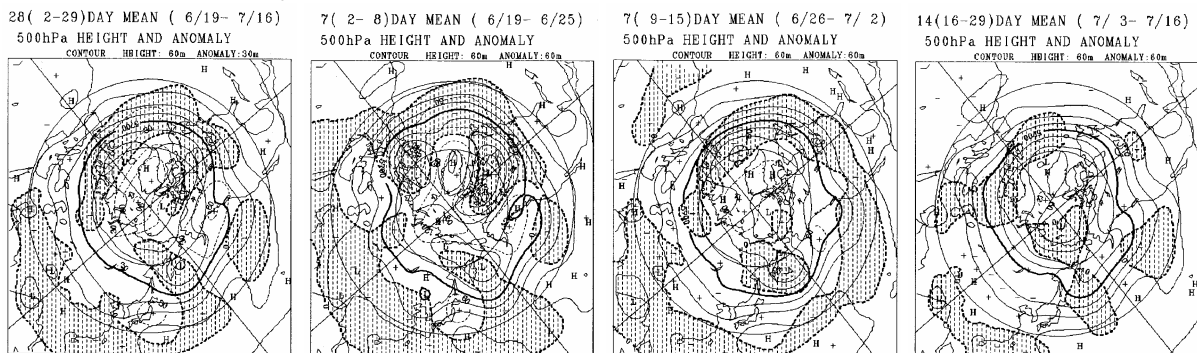


### 3．数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、日本付近は強い正偏差に覆われ、日本の南にある亜熱帯高気圧の北への張り出しは強いが、オホーツク海には気圧の尾根が予想される。

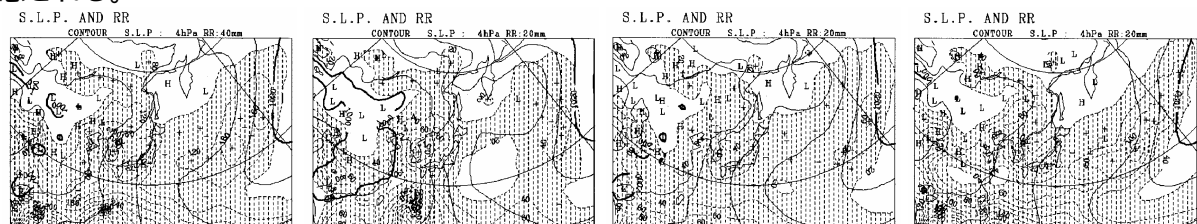
1、2週目は月平均と同様の循環場だが、1週目は台風第6号の影響で南西諸島付近の気圧の谷が深い。3～4週目も日本の南にある亜熱帯高気圧の北への張り出しは強いが、オホーツク海の気圧の尾根が明瞭となる。



地上気圧と降水量：

月平均では、日本の南海上に太平洋高気圧が張り出すが、オホーツク海高気圧も予想される。梅雨前線に対応する低圧部や降水域は不明瞭だが、日本付近にはまとまった降水域がかかる。

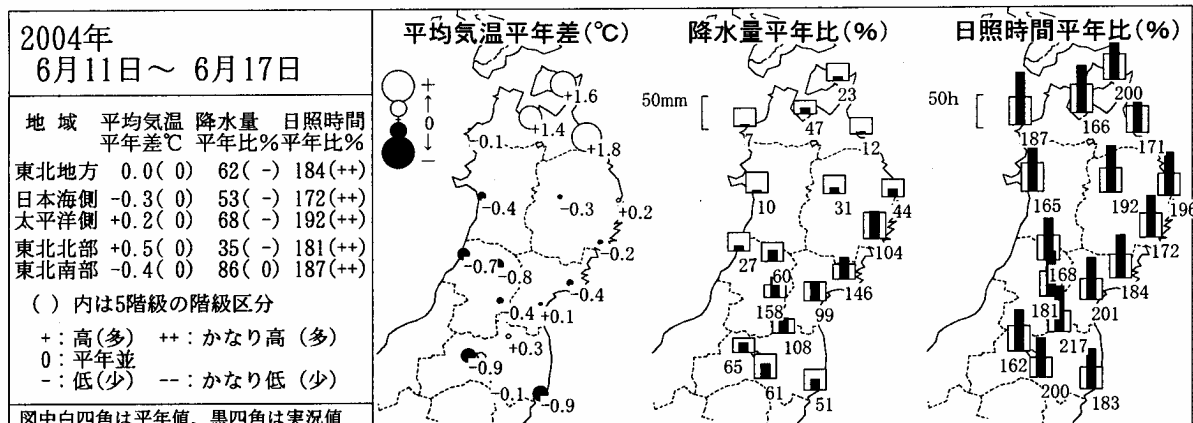
1週目は、台風第6号に対応するまとまった降水域が南西諸島から日本海にみられる。2週目も、日本の南の太平洋高気圧が日本付近に強く張り出し、まとまった降水域が日本海にみられる。3～4週目は、オホーツク海高気圧が顕著で日本付近は梅雨前線に対応するまとまった降水域が予想される。



### 4．最近1週間（6月11日～6月17日）の天候の経過

この期間、高気圧に覆われ晴れの日が多かったが、期間の初めは台風第4号から変わった低気圧や梅雨前線の影響で曇りや雨となった。また、15日は上層寒気が南下し、大気の状態が不安定となって東北部では雷雨となる所もあった。

平均気温は平年並。降水量は東北部で少ない、東西南部で平年並。日照時間はかなり多い。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)